

野村グループ
presents

マリインスキー・オペラ

MARIINSKY OPERA

芸術総監督・指揮 **ワレリー・ゲルギエフ**

マリインスキー歌劇場管弦楽団・合唱団

Valery Gergiev, General Artistic Director / The Mariinsky Orchestra & Chorus



チャイコフスキー作曲 (アレクセイ・ステパニユク新演出)

「スペードの女王」

(全3幕/日本語字幕付)

チャイコフスキー作曲

「マゼツパ」

(コンサート形式)

2019年11月30日(土)~12月2日(月)

東京文化会館、サントリーホール

主催：朝日新聞社/ジャパン・アーツ

特別協賛：野村グループ 協賛：野村不動産グループ

後援：ロシア連邦大使館/ロシア連邦交流庁

協力：ロシア文化フェスティバル組織委員会/マリインスキー・オペラ友の会

野村グループ
presents

芸術総監督・指揮 **ワレリー・ゲルギエフ**
マリンスキー歌劇場管弦楽団
交響曲全6曲&協奏曲5曲 オーケストラ・コンサート

マリンスキー 歌劇場管弦楽団

2019年12月5日(木) 19:00
サントリーホール

2019年12月6日(金) 19:00
東京文化会館

2019年12月7日(土) 13:00
東京文化会館

2019年12月7日(土) 18:00
東京文化会館

20代から晩年までチャイコフスキーがもがき苦しむ中綴った交響曲全6曲を軸に、ピアノ、ヴァイオリン、チェロの協奏曲全5曲を3日間4公演で贈る壮大なるオール・チャイコフスキー・プログラム。ソリストには大人気の辻井伸行、世界で活躍する五嶋龍、気鋭のチェロ奏者アレクサンドル・ブズロフ、知る人ぞ知るピアノの実力者セルゲイ・ババヤンを迎え、ゲルギエフがチャイコフスキーの魂を協奏する！



アレクサンドル・ブズロフ



五嶋 龍



セルゲイ・ババヤン



辻井伸行

12月5日(木) 19:00 サントリーホール

交響曲第1番 ト短調 Op. 13 「冬の日の幻想」

ロココの主題による変奏曲 イ長調 Op. 33 (チェロ:アレクサンドル・ブズロフ)

交響曲第6番 ロ短調 Op. 74 「悲愴」

12月6日(金) 19:00 東京文化会館

交響曲第2番 ハ短調 Op. 17 「小ロシア」

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op. 35 (ヴァイオリン:五嶋龍)

交響曲第4番 ヘ短調 Op. 36

12月7日(土) 13:00 東京文化会館

交響曲第3番 ニ長調 Op. 29 「ポーランド」

ピアノ協奏曲 第3番 変ホ長調 Op. 75 (ピアノ:セルゲイ・ババヤン)

ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 Op. 23 (ピアノ:辻井伸行)

12月7日(土) 18:00 東京文化会館

ピアノ協奏曲第2番 ト長調 Op. 44 (ピアノ:セルゲイ・ババヤン)

交響曲第5番 ホ短調 Op. 64

壮大なスケール、豪華絢爛なソリストで贈る チャイコフスキー・フェスティバル 2019 現代最高の巨匠ゲルギエフ&ロシア芸術の殿堂



巨匠ゲルギエフとマリインスキー劇場が総力を結集して贈る、【チャイコフスキー・フェスティバル 2019】
20代で書いた交響曲第1番から、亡くなる年に書き上げた第6番まで、作曲家がもがき苦しむ中、綴った交響曲全曲。それらを軸に、ドラマティックに奏でられるピアノ協奏曲は、代表作の第1番だけではなく隠れた名曲の第2番、3番まで。哀愁に満ちたヴァイオリン協奏曲と気品高い『ロココの主題による変奏曲』も、このフェスティバルにふさわしい、ゲルギエフがチャイコフスキーの魂を協奏できるソリストを迎えプログラミングされています。

そして極めつけは『スペードの女王』のオペラ（新演出）の上演と、『マゼッパ』（コンサート形式）。「子どもの頃はプーシキンの詩を口ずさみ、学生時代はそれを歌いながらサンクトペテルブルグの街をさまよったものです」と話していたゲルギエフ。“音楽人”として生き抜いたチャイコフスキーの音楽を多面的に重層的に演奏する中で、生きることの苦悩と喜び、そこから沸きあがる心の叫びと歌、人生の厚みと深さを、ゲルギエフとアーティスト、そして私たちと共に分かち合う—そんなフェスティバルになることでしょう。

歌劇「スペードの女王」アレクセイ・ステパニョク新演出

「現実」と「幻想」が交差する息を呑むサスペンス。

文豪ドストエフスキーの作品にも影響を与えたプーシキン原作の傑作オペラ。

歌劇「マゼッパ」<全3幕> コンサート形式

政争渦巻く激動の時代を、美しいアリアと溢れる叙情で民族色豊かに描きだした重厚な歴史絵巻。

チャイコフスキーの知られざる名作オペラ。

マリインスキー歌劇場管弦楽団 オーケストラ演奏会

チャイコフスキーの交響曲全曲と主要協奏曲を演奏

20代から晩年までチャイコフスキーがもがき苦しむ中綴った交響曲全6曲を軸に、ピアノ、ヴァイオリン、チェロの協奏曲全5曲をお届けする**壮大なるオール・チャイコフスキー・プログラム。**

ソリストには大人気ピアニスト辻井伸行、ヴァイオリニストの五嶋龍、気鋭のチェロ奏者アレクサンドル・ブズロフ、そして知る人ぞ知る実力派ピアニスト、セルゲイ・ババヤンを迎える。ゲルギエフがチャイコフスキーの魂を協奏する！

特設サイト URL : <https://www.japanarts.co.jp/tf2019/>

写真ダウンロード : http://bit.ly/Tchaikovsky_Fes

お問合せ : (株)ジャパン・アーツ 広報宣伝部 TEL (03) 3499-8100 pr@japanarts.co.jp

全公演概要

「スペードの女王」 新演出

上演時間：約3時間30分（休憩2回含む）

原作：アレクサンドル・プーシキン 作曲：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

演出：アレクセイ・ステパニョク

2019年11月30日(土)15:00 東京文化会館

2019年12月1日(日)15:00 東京文化会館

S席 42,000円 ～ E席 11,000円



歌劇「マゼッパ」 (コンサート形式) 日本初披露

上演時間：4時間（休憩2回含む）

作曲：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

原作：アレクサンドル・プーシキン

2019年12月2日(月)18:00 サントリーホール

S席 30,000円 ～ D席 9,000円



《オペラ2演目セット券》 S席 67,000円 A席 57,000円 B席 45,000円

交響曲全6曲&協奏曲5曲 オーケストラ公演

2019年12月5日(木) 19:00 サントリーホール (チェロ：アレクサンドル・ブズロフ)

2019年12月6日(金) 19:00 東京文化会館 (ヴァイオリン：五嶋龍)

2019年12月7日(土) 13:00 東京文化会館 (ピアノ：セルゲイ・ババヤン、辻井伸行)

2019年12月7日(土) 18:00 東京文化会館 (ピアノ：セルゲイ・ババヤン)

S席 22,000円 ～ D席 8,000円

S席 25,000円 ～ D席 8,000円 (12/6・7 昼公演)

【オーケストラ公演各地の公演情報】

11月28日(木)19:00 開演 福岡シンフォニーホール (ヴァイオリン：五嶋龍)

(問)アクロス福岡チケットセンター 092-725-9112

12月3日(火)19:00 開演 アクトシティ浜松 大ホール (ヴァイオリン：五嶋龍)

(問)公益財団法人浜松市文化振興財団 053-451-1114

12月8日(日)14:00 開演 フェニーチェ堺 大ホール(堺市民芸術文化ホール) (ヴァイオリン：五嶋龍)

(問)フェニーチェ堺 072-228-0440



上演時間：約3時間30分（休憩2回含む）

原作：アレクサンドル・プーシキン 作曲：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

演出：アレクセイ・ステパニューク

<あらすじ>

【第1幕】

18世紀末のサンクトペテルブルグ。貧しい士官ゲルマンは、名も知らぬ令嬢に恋をしていた。そこへエレットキー公爵が婚約者とその祖母である伯爵夫人を伴い現れる。その婚約者こそ、ゲルマンが恋する女性リーザであった。絶望するゲルマンは、伯爵夫人に関するある噂を知った。伯爵夫人が若かりし頃、カード賭博に大敗し窮地に陥ったが、彼女に恋する伯爵が<3枚の勝ち札>を教える代わりに自分の想いを受け入れるよう迫る。伯爵夫人は破滅こそ逃れたが「勝ち札についてかづくで知ろうとする男に殺されるであろう」という予言を受けた、というものであった。賭博で大金を手に入れば、貧しい自分でもリーザを手に入れることができる…。その夜、リーザは婚約中にもかかわらず、名も知らぬゲルマンを想い物思いに沈んでいる。そこへ、ゲルマンが表れ愛を訴える。リーザもその愛を受け入れる。

【第2幕】

リーザはゲルマンに逢引きを約束し、鍵をわたす。その夜、野望に燃えるゲルマンは伯爵夫人の邸宅に忍び込み、伯爵夫人に<3つの勝ち札>の秘密を教えるよう迫る。脅された伯爵夫人はショックのあまり発作を起こして死んでしまう。そこへ帰宅したリーザは、ゲルマンが<3つの勝ち札>の秘密を知りたいがために自分に近づいたと思い、ゲルマンを罵倒する。

【第3幕】

憔悴しきったゲルマンの前に、伯爵夫人の亡霊が現れ<3つの勝ち札>、それは「3」「7」「エース」だと告げる。最後の望みを胸にゲルマンに逢いたいと運河のほとりで待つリーザ。一緒に逃げようという彼女を振り切り野望にとりつかれたゲルマンは賭博場に向かう。絶望したリーザは運河に身を投げる。深夜の賭博場にゲルマンが現れ、大金を賭け始める。「3」そして「7」で勝ち進めていったゲルマンは、最後に「エース」で勝つはずだったが、「スペード」を引き誤ってしまう。全てを失い、正気ではないゲルマンは自ら命を絶ち息絶える。

<予定キャスト>



ゲルマン
ミハイル・ヴェクア
11/30 出演



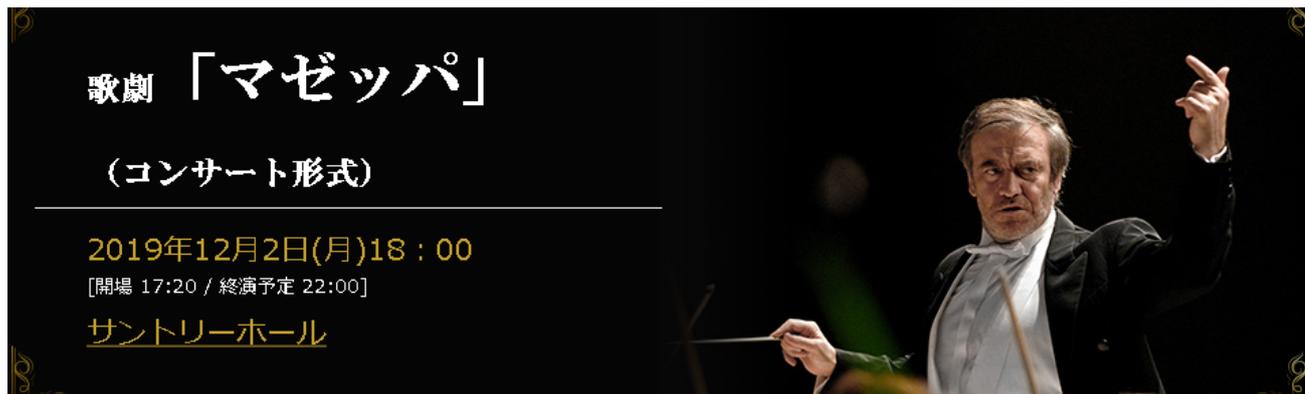
ゲルマン
ウラディーミル・ガルージン
11/21 出演



伯爵夫人
アンナ・キクナーゼ



リーザ
イリーナ・チュリロワ



歌劇「マゼッパ」

(コンサート形式)

2019年12月2日(月)18:00

[開場 17:20 / 終演予定 22:00]

サントリーホール

上演時間：4時間（休憩2回含）
作曲：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
原作：アレクサンドル・プーシキン

<あらすじ>

【第1幕】

ウクライナ中でも有数の富豪で地主のコチュベイは、ロシア皇帝最高位宮廷貴族として多数の農場と地方の広大な土地を所有していた。その娘マリアは、親以上に年の離れたウクライナの元首であるマゼッパと愛し合っていた。幼馴染のアンドレイが愛の告白をしてもマリアは上の空である。一方マゼッパは、マリアとの結婚の許しを得ようとしたが、コチュベイは、血縁関係より緊密な間柄とされているマリアの名付け親であるマゼッパとは結婚などさせられない、と抗議する。マゼッパは、マリアの承諾を得ている、その上で教会には免除を申し込むと言い捨てる。激怒するコチュベイが剣を抜き、争いを止めようと割って入ったマリアが、マゼッパの胸に飛び込んで行く。一方、母リュボフは、マリアの結婚に悲しみに嘆いている。そして、マゼッパに一矢報いるよう夫コチュベイに訴えるのだった。コチュベイは、マゼッパがピョートル大帝からの独立を企て、スウェーデン国王と同盟を結び、反乱を起こそうと計画していることをロシアに密告することを計画する。

【第2幕】

ピョートル大帝は、密告には信憑性がないとして、コチュベイをマゼッパに引き渡してしまう。コチュベイは鎖に繋がれ、厳しい尋問を受ける。そこにマリアが現れマゼッパに、不安な気持ちを訴えるが、マゼッパは「じきに戦争が起こるだろう、その戦争で、私は主権を手に入れる」と野心を明かした。マゼッパがいなくなると母リュボフが現れ、マリアに、処刑場に連れていかれる父コチュベイを救うよう説得する。話を聞いたマリアは恐怖に陥り、リュボフとともに処刑場へ急ぐが、処刑場では、すでに刃りが赤く染まっている。惨劇を目の当たりにしたリュボフは倒れ、マリアは異様な笑い声を立てながら意識を失ってしまうのだった。

【第3幕】

コチュベイの領地は廃墟となり、人影もない。マリアの幼馴染のアンドレイは、戦争を嘆きマリアとコチュベイの仇を取ろうとマゼッパを探している。一方マゼッパも、ピョートル大帝に敗れ今や逃亡の身。現れたマゼッパをアンドレイが見つめ、戦いを挑むが、マゼッパの部下に撃たれてしまう。そこへ正気を失ったマリアが歩いて来る。マゼッパを認識出来ず、父の死は母親の仕組んだお芝居だと信じ込んでいる。マゼッパは愛するマリアの変わり果てた姿に茫然となるが、ロシア軍が迫っていると知り、マリアを連れて逃げようとする。しかし、マリアが行くことを拒んだため、後ろ髪をひかれながらマリアを置き去りにして行く。残されたマリアは、廃墟の中で血に染まったアンドレイを見つけ、処刑場の恐怖を思い出す。もはや正気ではないマリアにはアンドレイを、子供と勘違いし子守歌を歌い始めるが、アンドレイは間もなく息絶える。廃墟の中でたった一人、マリアは花を抱きしめて子守唄を歌い続ける…。

<予定キャスト>



マゼッパ
ウラディスラフ・スリムスキー



コチュベイ
スタニスラフ・トロフィモフ



リュボフ
アンナ・キクナーゼ



マリア
マリア・バヤンキナ



アンドレイ
エフゲニー・アキーモフ

マリインスキー劇場芸術総監督、首席指揮者。
ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者。
チャイコフスキー国際コンクール組織委員会委員長。PMF 芸術監督。

オセチア出身の両親のもと、1953年モスクワに生まれ、レニングラード音楽院でイリヤ・ムーシンに師事。在学中にカラヤン指揮者コンクールで1位なしの2位に入賞し、キーロフ劇場（現マリインスキー劇場）に指揮者として招かれた。1988年、35歳の若さでキーロフ劇場オペラの芸術監督に就任。1996年からは芸術監督と総裁を兼任している。これまでに数多くの世界的な名歌手を育成し、音楽界に送り出している。その采配のもとで同劇場はオペラおよびバレエのレパートリーを大きく広げ、現在では18世紀から20世紀までのクラシックの傑作から、現代作曲家の作品にいたるまで、幅広いレパートリーを誇っている。

「白夜の星」音楽祭、ロッテルダム・ゲルギエフ音楽祭（オランダ）、モスクワ復活祭音楽祭などの音楽祭を創設し、芸術監督、音楽監督として活躍。

マリインスキー劇場において数多くの世界的な名歌手を育成し、音楽界に送り出してきた。その采配のもとで同劇場はオペラおよびバレエのレパートリーを大きく広げ、現在では18世紀から20世紀までのクラシックの傑作をはじめ、現代作曲家の作品にいたるまで、幅広いレパートリーを誇っている。

ゲルギエフは07年～15年までロンドン交響楽団の首席指揮者を務めたほか、近年は、メトロポリタン・オペラ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座管弦楽団などと共演している。



マリインスキー劇場 The Mariinsky Theatre

世界的にも有名な芸術文化の殿堂。

マリインスキー劇場の擁するオペラ、バレエは、世界最高峰を誇り、各国での引越公演は喝采とともに讃えられている。

1783年創設。1860年にはアレクサンドル二世の皇后 MARIA にちなんだマリインスキー劇場が完成した。その後1935年から92年までは、キーロフ劇場の名で、ロシアの古典オペラの多くを世界初演するとともに、いつの時代もヨーロッパの一流オペラ作曲家の作品を上演してきた。

2006年には火災に遭ったアトリエ兼倉庫の跡地に新しいコンサートホール、2013年5月には歴史ある劇場に並んで新劇場マリインスキーIIが完成。2016年ウラジオストクにマリインスキー劇場と提携する形でプリモルスキー・ステージがスタートした。マリインスキー劇場は、複合的な設備を備えた劇場へと生まれ変わり、更なる飛躍の時を迎えている。

オーケストラ公演 ソリスト・プロフィール

アレクサンドル・ブズロフ (チェロ)

1983年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院でナターリア・グートマン、ケルン音楽大学でフランツ・ヘルマーソンに師事。現在、演奏活動を行う傍らモスクワ音楽院にて後進の指導にあたっている。モスクワで行われ「New Names Foundation コンクール チェロ・室内楽の両部門でグランプリ、エマヌエル・フォイアマン・コンクール優勝・聴衆賞受賞、チャイコフスキー国際コンクール第2位・チャイコフスキー作品の演奏が最も優れていた奏者に贈られる MICEX 賞・ヴィシネフスカヤ＝ロストロポーヴィチ財団賞を受賞するなど、権威ある国際コンクールで優秀な成績を収めている。

五嶋龍 (ヴァイオリン)

五嶋龍は、7歳でPMFにてパガニーニのヴァイオリン協奏曲第1番を演奏し楽壇デビュー。幼い頃から「五嶋龍のオデッセイ」はじめ多くのメディアで取り上げられ、JR 東日本のイメージボーイや「題名のない音楽会」の司会などで注目を集める。今日、世界屈指のオーケストラ、芸術家たちとの共演、リサイタルに併せ、国際文化交流・教育・社会貢献活動を国内外に展開し、また空手家、企業家としての顔も持つ。録音はドイツ・グラモフォン専属契約/ユニバーサルクラシックスよりリリース。使用楽器は日本音楽財団より貸与の1722年製のストラディヴァリウス「ジュピター」。ハーバード大学(物理学専攻)卒業。上海大学名誉客員教授。JKA(公益社団法人日本空手協会)認定参段。日英仏中語が堪能。ニューヨーク生まれ・在住。公式ウェブサイト：<https://www.ryugoto.com/>
Twitter：[@RealRyuGoto](https://twitter.com/RealRyuGoto)

セルゲイ・ババヤン (ピアノ)

1961年アルメニア生まれ、6歳より音楽を学び、レフ・ナウモフ、モスクワ音楽院ではヴェラ・ゴルノスタエヴァやミハイル・プレトニョフに師事。1989年に渡米、カサドシュ国際コンクールや浜松国際音楽コンクールなどで優勝。1996年にはクリーブランド音楽院に自身の名を冠したピアノ・アカデミーを創設。ゲルギエフとのプロコフィエフ「ピアノ協奏曲第5番」の共演や、アルゲリッチと2台ピアノでCDもリリースしており、米を拠点に活躍。ダニール・トリフォノフの師としても知られている。

辻井伸行 (ピアノ)

2009年6月に米国テキサス州フォートワースで行われた第13回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールで日本人として初優勝して以来、国際的に活躍している。2011年、2014年と2018年のニューヨークのカーネギーホール、2013年のイギリス最大の音楽祭「プロムス」、2015年のウィーン楽友協会をはじめ、ベルリンやシドニーなどの世界の主要なコンサートホールでのリサイタルや一流オーケストラとの共演は、いずれも高い評価を受けている。エイベックス・クラシックスより継続的にCDを発表し、2度の日本ゴールドディスク大賞を受賞。作曲家としても注目され、映画《神様のカルテ》で「第21回日本映画批評家大賞」受賞。